

がんばるということ

弘前市立第三天成小学校

建 部 佑 斗

対象作品／岡田 淳著『びりつかすの神さま』偕成社

「ひとに勝つことが、がんばるつていうことだつたら、始お母さんはあなたに、がんばつてほしくなんかないのよ。」この言葉にぼくはおどろきました。それは、がんばるということは大事なことで、よいことだと思っていましたからです。

ぼくは、サッカーをやっています。でも、なかなか上手にできません。リフティングの回数は他の子より少ないし、シュートも、他の子は高く飛ぶのに、ぼくのはころころボールです。他の子と同じようになりたいし、できれば他の子よりも上手になりたいと思っていました。お父さんやお母さんからも、がんばりなさいとよく言われます。他の子に追いつくように、そして追いこすようにがんばらないといけないと思つていました。だから、「がんばつてほしくなんかないのよ」という言葉にびっくりしてしまいました。

その始のお母さんも、一組がリレーで大逆転勝利をした時は、喜びました。それは、みんなが本気でがんばったからです。きっと始のクラスのみんなは、負けないようといふ気

持ちでがんばったのではなく、こんなことに対するただ力をふりしぶって立ち向かつていつただけだと思います。だから、お母さんを感動させたのだと思います。

ぼくは今まで、人より試合に出られないことがつかりしたり、人より上手になりたいと思つたり、人と比べてばかりでした。でも大事なことは、人と比べるのではなくて、自分にとつてむずかしいことに対するせいいっぽい努力して乗りこえることだと気が付きました。

ぼくは夏休み中、本気の努力をしてみようと思いました。まず、練習の前に進んで道具のじゅんびをするようにしました。それからおしゃべりをしないで練習に集中するようにしました。練習がない日は、近くの公園に行つて、お父さんとお兄ちゃんといつしょにシュートやパスやドリブルの練習をしました。苦手なリフティングやドリブルが前より少しできるようになつてきました。

八月十一、十一日、岩手で試合がありました。二日目、と

中から試合に出ました。味方のチャンスボールになりました。相手のゴール近くまでせめ上がり、味方がシュートを打ちました。ボールはキーパーにはじかれて、転がつたので、そのボールを直せつけつてシュートを打ちました。するとボールは、ゴールの左側に入りました。仲間からナイスと言われました。ボールをうまくコントロールしてけられたことがうれしい。

かつたです。それからチームの役に立てたことが、もつとうれしかつたです。

今までのぼくは、自分と人を比べてばかりでした。これからは、人に勝とうと思つてサッカーや勉強をがんばるのではなく、自分にとつて難しいことや大変なことにも立ち向かい、本気の努力をしていきたいと思います。